

# 漁況予報 いわし

## 第 1 1 8 号

2003年 7～8 月漁期  
(2003年7月 日発行)

### ＝ 概況 ＝

#### 【まいわし】

主要定置網における7月のマイワシ総漁獲量は11トンで、前年同期(1.6トン)の7倍程度の漁獲がありました。このうち、8割近くは鎌倉～藤沢地区における漁獲で、この地域に魚の来遊が集中したことがうかがえます。体長17cm台の中羽マイワシ1歳魚(2002年級群)が主体ですが、13～14cmの当歳魚も混じってきました。8月に入ると、引き続き、1歳魚主体の漁模様が続いていますが、当歳魚の混獲割合が増えてきました。

結局、主要定置網における上半期のマイワシ総漁獲量は40トンで、これは極めて低調だった昨年の50トンをさらに下回る結果となりました。

中型まき網は、まとまった大羽の来遊がなかったことから、前漁期に引き続き漁獲はありませんでした。

#### 【かたくちいわし】

主要定置網における5月のカタクチイワシ総水揚げ量は、400トンで昨年同期(540トン)と同じく好漁となりました。4月に一旦来遊量が減少しましたが、5月に入り相模湾東部を中心に、再び12cm以上の大型成魚主体の群れが多く来遊し、特に三浦～鎌倉地区にかけての定置網で多くの漁獲がありました。6月も引き続き群れの来遊が相模湾全域に及び、多くの定置網で昨年同期を大きく上回る漁獲となりました。

高水準期に入って久しいカタクチイワシですが、昨年春先における成魚の来遊量が際立って多くなってきました。

佐島地区のまき網も、連日、餌イワシとして漁獲を継続しており、小田和湾は生簀でいっぱいになっています。一方、他海域でもカタクチイワシが豊漁で、カツオ船に対して供給過剰になっていて、思うようにイワシが売れないという悩みも抱えているようです。

#### 【しらす】

4月の低温傾向から一転、ゴールデンウィーク中に連日暖水が1ノット以上で相模湾に流入しました。これにより、水温も平年並みに戻り、沖からシラスの加入もあり、5月に入りようやく本格化した相模湾のシラス漁ですが、好漁は20日ぐらいまでで、それ以降は散発的な漁模様となったまま、現在に至っています。

5月までは予測どおり昨年を上回る漁獲水準で推移したものの、4月及び特に6月は予測を大きく下回る結果となりました。全国的に豊漁傾向で、近隣海域の遠州灘や鹿島灘でも前年を大きく上回る漁獲水準の中、局部的に相模湾及び駿河湾のみ、予測した程の漁になっていません。この原因として、沖合いからの湾内への暖水の流入が弱く、シラスの沖合海域からの加入が低調だったこと及び、湾内に大量のカタクチイワシ成魚が来遊し、卵を多く捕食していることが考えられます。

相変わらず、相模湾へは多くのカタクチイワシが来遊していますので、昨年同様、今年も夏シラス漁は厳しいものとなりそうです。

### ＝ 予報 ＝

#### まいわし

今漁期は、中羽イワシ(2002年級群)が漁獲の主体となり、定置網主体に散発的に入網するものと思われます。

今漁期の漁獲量は、約15トンと予測されます。

\* 縦軸：主要定置網+まき網

#### かたくちいわし

今漁期は、小型及び大型成魚が漁獲の主体となります。

大型成魚の資源量がかなり多いようで、前漁期中も断続的に漁獲されました。

今漁期も引き続き、前半を中心に大型成魚が混じるでしょう。

今漁期の漁獲量は、約380トンと予測されます。

#### しらす

今漁期は5～6月生まれのカタクチシラスが漁獲の主体となります。

昨年もそうでしたが、成魚が湾内にあまり多く来遊すると、シラス漁には良くない傾向があります。

今漁期の漁獲量は、約20トンと予測されます。

過去5年の7・8月漁期の漁獲量  
と今漁期の予測量



